

## 2018 世界大学選手権 選手感想 (MTB クロスカンントリー選手)

2018 年 10 月 1 日

日本学生自転車競技連盟

### 大会概要

場所 ポルトガル ブラガ

種目 ロードTT・ロードレース・MTBクロスカンントリー

期日 2018 年7 月30 日～8 月4 日

### 山田夕貴

日本を7月27日に出発し、7月31日から8月4日までの日程で行われた世界大学選手権。着いてから数日は涼しかったものの、レースが始まりだすと途端に気温は上がり40度程にもなっていました。湿度が高い上に気温も高い日本から来たから他の国よりは順応が早いだろうと思っていたが、逆に湿度が低いことで体がすぐに枯渇してしまうような感覚でした。

私はMTBのXCOに参加し、18人中9位という順位でレースを終えました。スタートからつまずきトップとも絡めず悔しい結果となりました。終始苦しい状況が続き、フィードでサポートしてくださっていた橋本さんや辻本さんの声かけで気持ちを折らずに保てていました。またこの大会に参加する機会があればもっともっと上位で走りメダルを取りたいと思います。

その後は男子のサポートや初めてのロード観戦兼サポートをしました。いつも以上にサポートして下さる方々のありがたさを感じることができた時間でした。

ロードとMTBの選手の雰囲気の違い、初めは話すことすらできるかも不安な状態でしたが、大会の終わりが近づくにつれて距離も縮まっていったと思います。また、他国の選手との交流が他の世界大会よりも密に行え、同世代の選手と話すことができたのは私の中で大きな変化でした。ですが、英語力があまりないために伝えたいことを100%伝えることができなかつたのでやはり英語の学習はとても大切だと思いました。

長い遠征の中でたくさん迷惑をかけてしまいましたが、とても良い経験となりました。ありがとうございました。

### 穴田 玖舟

結果:13位

MTB SCOTTO SPARK RC WORLD CUP

気温がとても高くなっていたのでアップはオーバーヒートしないように頭と顔以外全身を水で濡らし、乾ききらないように浴びながらアップをした。

レースは、1分前のコールから10秒後に笛がなり突然レースが始まった。その前にギアやペダルの角度など心の準備をしていたのでそこまで焦らずスタートすることができた。もともとハイスピードコースだと思っていたのでバラけるのが早いと思っていた。スタート直後から体とハンドルが接触するほどポジション争いが激しく、列が伸びてきたあたりで前の3人の選手が落車し、それに巻き込まれる形になってしまった。焦って前の集団に追いつこうともがいたが、すでに集団は無く分散していた。それほど前の選手たちは強く、落車に巻き込まれてなくてもその流れにはついて行けなかったと思う。後追いとなってしまったので海外の強い選手と絡める機会も無くてただ淡々と走るレースになった。挽回出来るチャンスは何度もあったが、そこで踏めなかったのが今の自分の実力です。環境を整えてくださったチームやチーム関係者のためにももっと努力をして、上を目指します。

### 松田賢太郎

人生初の海外レースということもあり、不安が非常に多かったがガイドの方や他の国の選手に英語でコミュニケーションが取れることが出来たので大きな問題はなかった。

レースのコースは宿から少し距離があつて行くのが大変ではあったが、そこに行くまでの道が日本にはまずないような道で景色などを楽しむことが出来た。また、街のカフェなどに入り現地の人と交流することもでき非常に充実した期間であった。

レース自体は、コースが日本のどこよりもハイスピードでテンポがよいものだった。長い登りや下りが無いため足を休めるところがなかった。またロックセクションが3つあったがどれも作り込まれていてテクニカルではあるが安全に走ることが出来た。国際大会ということもあり緊張感が国内のレースとは大きく違ったのでそれを経験できただけでもよかった。

### 松本佑太

今シーズン2回目のポルトガルでのレースとあって、国の雰囲気把握していた上で現地入りできました。到着した初日からお腹を下してしまい、また、試走での転倒で軽傷ですが怪我をしてしまった為、コンディションとしては万全とは言えなかったものの、大会当日まで日にちがあつたことで、整える事は出来ました。

レース当日は高い気温が予想されたので前々日から買ってきて頂いていた水を摂取したことで対策することができました。

レース当日のフィードは日本選手が続く中でも希望通りの補給を出していただいたことに感謝しています。パンクがあつたにせよ完走することができました。

レース後はヨーロッパの選手達と話す機会があり、多くのことを話しました。ロードのサポートでは、予定通りの場所で選手の希望通りに渡すことができたと思います。

普段はレース後にこれだけの日数の滞在がないのですが、街の周りのトレイルを走ったりして日本との自転車文化の違いも肌で感じることができました。

全体の印象としては、普段交わることのないロードの方々と共に時間を過ごせたこと、また、海外の大学生ライダー達とコミュニケーションが取れた事は非常に貴重な経験になりました。フェイスブックやインスタグラムで彼らと繋がり、彼らの様子を見られることでモチベーションアップにも繋がると思います。

さまざまなサポートありがとうございました。

### 江越昌也

今大会の遠征により 2 年後の次大会において必要・改善・反省と感じた点として勿論今大会(日本学生代表)のスタッフの方々の様々な手配やサポートによって円滑に進みましたが、更に付け加えると次回からはメカニック 1 名(MTB/ロードレース共に精通した)の帯同が必要なのではないかと考えました。

メカニックの帯同により各選手の持ち込み機材や工具の縮小化により負担を軽減し、大会現地でも事前にレースに備え機材を完璧な状態にしておくことでレース中のアドバンテージと機材のトラブル縮小に繋がると考えました。

又、出国前に各選手が自身の使用する機材をメカニックやスタッフが把握できるように使用機材のリスト記入を選手に行わせる事でより円滑な物になると考えました。

### 黒瀬文也

今シーズン 1 番の目標のレースであり、世界の大学生が出場できる世界大会、世界大学自転車選手権。自分の力をフルに出すことが出来なかったが、最後まで全力で楽しみ走ることが出来た大会でした。

7 月 27 日に出発し、28 日の夕方にポルトガルのプラガに到着しました。29 日から乗り始めコース試走を行い、30 日までの 2 日間はコース試走。31 日は宿付近のトレイルで調整をしました。

8 月 1 日レース当日。男子レース開始時間は 14 : 30 で宿から会場までのバスが 11 時発で 11 時半過ぎ時に会場に到着。当日はポルトガルでも暑い日らしく 30℃超えで日差しも強く、空気も乾燥していました。試走時よりも土埃も舞いやすくなっていました。

スタート 40 分前にアップを開始し、全日本選手権のようにオーバーヒートしないように掛水とジェルを取りながら道路でアップをしました。

スタートは UCI ポイント順で 10 番スタートの 2 列目。スタート 1 分前の合図がありその後の 30 秒と 15 秒の合図無しにスタート。

他選手たちもそれに驚きスタート時に横の選手が倒れてきましたがそれほど影響なくスタ

ートし 9 番か 10 番手あたりで走ることが出来た。いつもの暑い日よりも体の調子が良く、前の選手から離れないように走った。掛水とドリンクをよく摂った。

3 周目はポーランドの選手と 2 人パックになり先頭交代をしながら前を追いました。4 周目の後半にペダルが回らなくなり一度止まって無理に回して少しだけ回るようになりそこから再スタートしました。ペダルが少しずつ回ってきましたが、その間に順位を下げてしまい追い上げに体力を相当使ってしまった。4 周目、5 周目と気温がピークを迎えフィードで掛水を 3 個受け取り全身に掛けるのを繰り返した。フィードをして頂いたスタッフ、ロード選手の迅速な対応でオーバーヒートを防ぐことが出来ました。

ドリンクボトルを 4 本用意しましたが、すべて飲んでいました。いつもの日本のレースでは 1 本残る予定ですが今回のレースではすべて使い切り、そのほかにも水を摂取していました。

6 周目で日本チーム監督からこの周回で頑張らないといけないと言われ、これ以上ペースを下げると LAP されるのでオーバーペースで漕いで、最終周回に入ることが出来た。そこで日本チームは全員最終周に入ることが出来た。

7 周目は前に日本メンバーが居て抜き 1 つ順位を上げて 16 位でゴール。ゴール後は最後まで追い込み、楽しんだ、やり切ったという達成感と喜びがあった。まだまだ前に行けるレースでしたが、機材トラブルがありメンテナンスが足りなかった部分があった。レース前は大丈夫であったが、レースでの激しい使用で故障があったのでその部分では修正していくことがこれから必要なことでした。

世界大学自転車選手権はとても楽しく追い込み、世界のレースで完走することが出来たので胸を張って帰りたいと思います。また世界へ挑戦するときまで練習。沢山の応援、サポートありがとうございました。

今回の世界大学選手権は XC O16 位でゴール・完走することが出来、メカトラはあったものの、自分自身の全力を出した結果でした。ヨーロッパ勢にはまだまだ力が足りない部分が多くあったので、2 年後の世界大学自転車選手権で 1 桁ゴール出来るようにすることが目標です。

今回の遠征で良かったこと飛行機の手配、空港～ホテルの移動をして頂いたことはとても良かったです。フィードサポートはとても良かったです。

悪かった点としてはオフィシャルの予定をチーム全体で前もって知ることが出来なく、混乱する事態が多々あったこと。大学食堂の食事が美味しくなかったことでした。次の世界大学自転車選手権ではオフィシャルの予定を全体がわかるようにメールで良いので送るなどしてメンバー全員がわかるようにすればよいかと思います。

今回はレースサポート、事前準備などありがとうございました。

また 2 年後選考されましたらよろしくお願いたします。

## 上野蓮

世界の大学生の代表選手が集まるレース。

自分にとって楽しみのレースの一つだった。

### 試走日

宿からコースまでは約 20 キロの距離で、アップがてら代表メンバーと移動した。

コースは一周約 4.3 キロ。

コースを走った感想はアップダウンの切り替えが多いが一つ一つ短く、スピード感を感じるコースだった。ロックセクションも所々設けてあり、ラインを外すと尖った石でパンク  
のリスクがある為、反復しながら速く、安全なラインを確認した。

### レース当日

ポルトガルで生活していると日に日に気温が高くなり、レースの日は 40 度近い気温だった。その為、しっかり水分を取ったり、濡れたタオルを首に巻いたりなどと暑さ対策を取り組んだ。

コースまではバスで移動し、アップは近くのロードで疲れないよう日陰に出入りしながら行い、招集時間まで待つ。2 時 20 分ごろに招集され、3 列目に位置付けた。

前方にはヨーロッパ勢が揃っており、最初からマークして走る事を決めていた。

2 時 30 分男子のレースがスタートした。男子は 7 周回で行われた。予想通りのハイスピードなスタート、上手く抜ける事ができ、6 位あたりで一周目を走る。

2 周目はキプロス、ポーランドの選手を含む 3 人のバックで通過した。バックの後方から他の選手が迫ってきていた為、何としてでも逃げようとペースを上げる。コースは日陰がなく、高い気温でペースも速かった為ローテーション出来ず付いて行くのにやっとだった。徐々に体が暑さに慣れだし、バックで仕掛けるタイミングを伺いながら走った。

3 周目に入った所でさらにペースを上げるとキプロスの選手が下がり、ポーランドの選手と 2 人バックになった。暑さにやられ、お互い限界な状態であるがペースを壊さないようローテーションしながら 4 周目に突入。40 度近い暑さに耐えながら我慢の走りが続く。毎周回の掛水、補給を頼りに必死にペダルを漕ぎ続けた。

5 周目の後半のドロップで後ろいたポーランドの選手が落車。チャンスと思い逃げにかかる、それまでかなり体力を消耗しているが、歯を食いしばり逃げた。

6 周目、後ろとのタイム差が広がらない、むしろ徐々にタイムが縮まっていた。

これ以上踏めない自分に苛立ちもあつたが残り 1 周ある事を言い聞かせ冷静に周回を重ねる。7 周目最初に離れたキプロスの選手とポーランドの選手がバックでペースを上げて近づいてくるのを確認した。意識が朦朧としていて限界な自分はどうする事も出来ず、コース後半で 2 人に追いつかれた。バックに乗って行こうとついていくも、逃げに足を使い切ってしまう、すでに力は残っていなかった。実力不足を感じさせられた。

結果 2 人にパスされそのまま 9 位でフィニッシュ。

暑さには日本のレースで慣れていたと思っていましたが完全に猛暑にやられてしまいました。炎天下の中でサポート、応援してくださった、スタッフの皆さん、ロード選手の方々には感謝しかありません。結果はとても悔しいですがこれからもレベルアップの為トレーニングを続けます。